支えあいのまちづくり協議体（日本橋地域）実施報告

中央区に住む方・働く方ができる支えあいの形について、身近な地域で話し合う「支えあいのまちづくり協議体（第2層協議体）」の令和４年度第３回目を、日本橋地域(はまるーむ)で開催しました。

１ 実施日

令和４年 11 月 30 日（水）10:00～11:30

２ 出席者

日頃高齢者と関わる機会の多い地域住民、関係機関、生活支援コーディネーター　計８名

３ 内容

・多世代交流スペース「はまるーむ」上半期 実施報告

・意見交換：日本橋地域の社会資源の見える化

４ 多世代交流スペース「はまるーむ」上半期 実施報告

令和 ４ 年度多世代交流スペース「はまるーむ」上半期分の運営状況を報告。来所者の属性や相談内容、地域ささえあい課が企画する各種講座の実施状況について説明した。また、上半期から下半期にかけてはまるーむを活用した地域活動の開催について相談が増えており、複数の団体が活動を開催したことを報告した。

５ 意見交換：日本橋地域の社会資源の見える化

前回の協議体で高齢者の手元に情報が届いていないこと、日本橋地域の社会資源をよく知らないことについて多くの意見が上がった。そのため、今回の協議体では日本橋地域の地図を用い、①フォーマルな資源②インフォーマルな資源③ナチュラルな資源の3つに社会資源を分類し、地図に落し込むワークを行った。(別紙参照)

日本橋地域の社会資源の見える化を図るワークを実施し、上記の社会資源と以下の意見が上がった。
▼日本橋地域だけでも社会資源に地域差がある。また、住民の生活スタイル等に違いがある。
▼日本橋浜町付近だけでも“ナチュラルな資源”(日常生活を営む中でのつながり)が豊富にある。
▼何もないところで・・・というよりは一息つきながら話をされる方が多い。そのため、高齢者が集う場所は自然とカフェ等の飲食店になる傾向がある。
▼委員の生活圏域の関係でナチュラルな社会資源を把握することができていない地域がある。そういった地域にも必ずナチュラルな資源はあるため、そういったつながり・資源を確認する取り組みも面白いのでは。
▼つながるきっかけを作る場からナチュラルな資源に派生する部分があると思う。つながるきっかけの場はフォーマル・インフォーマルな資源が活用されることが多く、浜町エリアでは浜町敬老館でつながりができることが多い。
▼バリアフリーの有無を重視される方も少なくない。階段のある店舗や足が地面に付かない高椅子を採用しているお店は敬遠される傾向がある。

★今後の方向性について

案1：日本橋浜町付近をモデルとした広報物の作成・配架
日本橋浜町付近をモデル地域とし、高齢者が集っている場の紹介や困ったときの相談先(おとしより相談センターや中央区社会福祉協議会など)、つながりのきっかけとなる場の紹介などを掲載した広報物を作成する。作成した広報物に関しては今回のワークで上がった高齢者が集う場に配架協力を依頼する。

案2：3つの社会資源が把握できなかった地域の調査
案1の広報物を参考に日常生活を送るなかで高齢者が集っている場や地域での取り組みについて、該当地域を調査し、新たな“集いの場”(ナチュラルな資源)の掘り起こしを行う。

案1・2 をベースに今後の具体的な取り組みについて検討する。

6 その他
令和 3 年度をもって本協議体を退任された委員の後任について今後の方針を説明。
▼後任として、「区内 訪問看護ステーション」の作業療法士に協議体への参加を打診する。
▼後任として、「区内 郵便局長」に協議体への参加を打診する。
両者ともに第 4 回目の協議体からの参加を目指し、事務局で調整を図る。

7 今後のスケジュール
次回は3月中旬に開催予定。

以上